

# 徳島が 好きに なる本

文化と経済でみる「徳島」

公益財団法人 徳島経済研究所



## 発刊にあたって

徳島経済研究所は、1985年、阿波銀行創立90周年記念事業の一環として、地域経済・産業の振興と健全な発展に寄与することを目的に設立されました。

以降、私たちが実施する調査・研究のテーマは、絶えず変化する社会・経済に対応し、その時々要望に応えるのもちろん、一歩先んじて将来を見据えるよう努力してきました。

近年地域が直面している大きな課題の一つに、人口減少や高齢化の進展が挙げられます。現在、地域創生に向け官民挙げてさまざまな取り組みを行っていますが、より大きな成果を出すためには、地域をよく知り、その地域ならではの良さを見直すことが不可欠です。地域のことをよく知ってこそ、その地域にふさわしい対策を考えることができます。

当研究所では、「徳島県の経済と産業」という冊子を毎年刊行していますが、内容は最近の統計データが中心で、事典代わりに使われることを想定したものです。そこで、この本は、中・高校生や大学生を対象に、歴史も振り返りながら徳島の全体像を素早く把握で

きるよう、読み物風に仕上げてみました。

中・高校生や大学生の方に限らず、徳島県に関心をお持ちの社会人はもとより幅広い方々にもご一読頂けると幸いです。

今回の発刊に当たり、資料提供などご協力を賜りました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

2016年7月

公益財団法人 徳島経済研究所

理事長 古川武弘

## はじめに

徳島経済研究所では、2015年6月に「徳島県の観光ビジネス活性化構想」を発表しましたが、観光振興に取り組んでいくうえで一番重要なことは、県民が地域に誇りと愛着を感じ、一人一人が語り部となって、徳島の魅力を発信していくことだと思います。そのためには、徳島の良さを知る必要がありますが、学校や家庭で、こうしたことが話題になることは少ないように思います。

大学生の皆さんに徳島のことを話す機会がありますが、感想文を読むと、「ほとんど初めて聞くことばかりで、いかに徳島のことを知らなかったか痛感しました」「徳島の魅力を知り、イメージが変わりました」といった内容が多く、より多くの人に、徳島のことを伝えたい、と思ったのが、本書を作ろうと思ったきっかけです。大学生に限らず中・高校生や社会人の方にも、幅広く、気軽に読んで頂けるものになりました。

この本の中身は経済中心ですが、文化や歴史などにもふれながら、徳島のことを、できるだけわかり易く、興味を持って読んでもらえるような内容になっています。

徳島は、江戸時代から明治まで藍産業で栄え、1889（明治22）年に市制を敷いた徳島市は、当時、人口が全国第10位という全国有数、四国最大の都市でした。藍産業の衰退後、主要な地場産業に恵まれませんでした。現在は、鳴門が発祥の地である大塚グループや、阿南に本社のある日亜化学工業といったグローバルに展開する企業が徳島の経済に大きく貢献しているほか、多くの特徴ある企業が県経済を支えています。こうしたことも、本書を通じて知って頂きたいと思います。

また、徳島には、素晴らしい自然や食材に加え、伝統的な文化の魅力があります。その筆頭は、なんといっても阿波おどりでしょう。観光客が参加できる日本の祭り第1位、外国人が選ぶ日本の祭り第1位、といったアンケート結果もあります。2016年には、パリでの大規模な公演が予定されていますが、世界の人を魅了することができるのが、阿波おどりです。このほかにも、藍染め、阿波人形浄瑠璃、ベートーヴェンの第九交響曲アジア初演、四国遍路などがあります。こうした文化に、現代性も加味し、徳島の魅力として発信していくことが重要です。新しい文化としては、若者を惹きつけるアニメ文化も、徳島で浸透してきています。

さらに、全国に広がる過疎地域の先進的モデル地域として、徳島が大きく脚光を浴びています。先進的なIT (Information Technology) 企業やクリエイターが集まる神山、

おばあちゃんたちの葉っぱビジネスで有名な上勝、秘境の景観と古民家を再生した宿泊施設が人気の祖谷には、全国、世界から多くの人が視察や観光で訪れています。

自然豊かで暮らしやすい徳島の環境を今後とも残していくためにも、環境・エネルギー問題に関心を持ってもらいたい、という思いで、このテーマの章も設けました。

最後の章では、景気を判断するうえで参考になる指標や徳島経済研究所のアンケート調査について解説しています。

この本が、徳島の経済、文化などについて、皆さんの理解と徳島愛を深める助けになれば幸いです。

専務理事 田村耕一